

呉昌碩と日本人士研究

A Study of Wu Changshuo and Japanese

松村 茂樹¹, 下田 敦子², 松田 春香³, 関本 紀子⁴, 木村 淳⁵,
吉越 里桜⁶, 青木 俊郎⁷, 藤井 暖子⁸, 田中 亜美⁹

Shigeki Matsumura¹, Atsuko Shimoda², Haruka Matsuda³, Noriko Sekimoto⁴, Jun Kimura⁵,
Rio Yoshikoshi⁶, Toshiro Aoki⁷, Atsuko Fujii⁸, and Ami Tanaka⁹

^{1・3・4}大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科, ²大妻女子大学人間生活文化研究所,
⁵大妻女子大学非常勤講師, ⁶大妻女子大学大学院修士課程, ^{7・8・9}大妻女子大学博物館

キーワード：呉昌碩，日本人士，交流，書画文墨趣味ネットワーク，展覧会

Key words : Wu Changshuo, Japanese, Exchange, The network of art object and writing, The exhibition

1. 研究目的

詩書画印四絶をもって「中国最後の文人」と称せられる呉昌碩(1844-1927)は、多くの日本人士と交流している。呉昌碩は、本人の強い希望があったにもかかわらず、日本に来ることができなかった。よって、交流は日本人士が中国に呉昌碩を訪ねる形で行われている。また、仲介者を通して書画や刻印を依頼した日本人士も多く、図録刊行や展覧会開催も日本において少なからず行われた。

呉昌碩と交流した日本人士の中には、長尾雨山(1864-1942)、内藤湖南(1866-1934)といった学者、日下部鳴鶴(1838-1922)、河井荃廬(1871-1945)といった書家・篆刻家、富岡鉄斎(1836-1924)、橋本関雪(1883-1945)といった文人画家などのいわゆる文墨人士のみならず、犬養木堂(1855-1932)、西園寺公望(1849-1940)といった政治家、大倉喜七郎(1882-1963)、高島槐安(1875-1969)といった財界人もいる。彼らは、そのほとんどが漢学の素養を有しており、呉昌碩が「中国最後の文人」であることを認識し、様々な形で接点を持つとした。

本研究は、こうした呉昌碩と日本人士の交流の実態を考察するものである。彼らは、呉昌碩の

人と作品への尊重と愛好を共有する者として、「書画文墨趣味ネットワーク」を形成していた。本研究の仮説として、このネットワークが、当時の欧化一辺倒とも言える風潮のアンチテーゼとなっており、そこに政治家や財界人も加わっていたことから、大きな影響力を有していたのではないかという「問い」を提起している。

2. 研究実施内容

幸いなことに、研究代表者拙著『呉昌碩と日本人士』(2019・7・5「Otsuma eBook」大妻女子大学人間生活文化研究所)の刊行がきっかけとなり、2020年7月、呉昌碩と交流した日本人士の一人である京都夷川の家具宮崎三代目社長・宮崎平七氏(1874-1946)が呉昌碩に直接依頼して作ってもらった「行書題画詩軸」が、大妻女子大学博物館に寄贈された。

これを機に、同博物館の主催、本研究プロジェクトの助成により、「呉昌碩と日本人士—中国最後の文人と交流した書画文墨趣味ネットワークの人々—」展を開催し、上記寄贈作品および大妻女子大学図書館蔵の呉昌碩作品、そして大石六田氏、大妻学院、研究代表者蔵になる呉昌碩と交流した日本人士の書画28件を展示し、併せて、

図録制作、動画作成を行った。このことにより、呉昌碩と交流した日本人士が形成した「書画文墨趣味ネットワーク」の意義を書画資料により論証できた。

3. まとめと今後の課題

本研究は、論証資料として、呉昌碩および呉昌碩と交流した日本人士による書画資料を用いる点にある。書画資料は、美術史的分析には用いられるが、本研究のように交流の実態と意義を明らかにすることにはほとんど用いられることはない。だが、当時の日本人士の多くが自らも書画を作る立場にあり、彼らが最も求めたのが呉昌碩の書画であった。よって、書画資料により論証することは、本質的部分の解明に必要な

不可欠と思われる。今後は、この手法による研究の有効性をより明らかにして行きたい。

4. この助成による発表論文等

① 展覧会図録

[1]大妻女子大学博物館特別展「呉昌碩と日本人士—中国最後の文人と交流した書画文墨趣味ネットワークの人々—」(大妻女子大学博物館編集・発行 2021.3.16)

② 展覧会解説動画

[1]大妻女子大学博物館特別展「呉昌碩と日本人士—中国最後の文人と交流した書画文墨趣味ネットワークの人々—」(松村茂樹解説,大妻女子大学 総合情報センター メディア教育開発センター編集・発行 2021.4 予定)

呉昌碩「行書題画詩軸」

呉昌碩肖像

